

令和7年度

高越小学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- よく考え主体的に学習する力を伸ばす板書・ノート指導の充実
- SWPBSを活かした学習指導の実践

校長

学力向上推進員

【小中連携における共通の取組】

聞く力を育てるために、子ども同士で伝え合う機会を確保する。

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業観察や教員との対話や報告等、あらゆる機会を捉え、取組状況と児童の変容等の把握を行う。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○与えられた課題にはまじめに取り組み、漢字の読み書きや整数の四則計算等についてはある程度の定着が見られる。 ●語彙数が少なく、問題を読み取る力や文章を書く力、聞く力に課題がある。 ●学力に個人差がある。個人のつまずきを把握し、個に応じた指導や家庭での自主学習につなげる必要がある。	・課題に進んで取り組み、基礎的・基本的な知識・技能を身に付けている。 ・授業中の決まりを守り、最後まで集中して話を聞くことができる。 ・話や文章の要点を聞き取ったり読み取ったりすることができ、自分の考えを書いたり話したりできる。	・児童が興味を持って学習に取り組めるよう、問題提示をICTを使って視覚的に提示したり、発問を工夫したりする。 ・「話し方名人」を活用し、話すことについて意識付けをする。 ・短い話を聞く場面を設定し、その話の要点などを確認する機会を設ける。 ・板書とノート指導を充実させ、言語環境を整える。 ・読書カードに感想だけでなく初めて知った言葉や気になる言葉を書くようにし、語彙を増やすことにつなげる。 ・何が書かれているかを捉えさせるため、教科書にアンダーラインを入れさせる。	・板書とノート指導を充実させると共に、高学年では、デジタルノートも併用して、言語環境を整える。 ・語彙を増やすために、キーワードを掲示する。	・ICTを効果的に使うことで、興味を持って学習に取り組む児童が増えた。 ・デジタルノートの活用により、高学年では友達の見解も参考にしながら自分の意見を書くことができるようになってきた。 ・聞き方に力を入れて取り組んできた一方、話し方について課題が残った。	・語彙を増やせるように、読書カードの形式を工夫する。 ・「話し方名人」を積極的に活用し、話すことについて意識付けをする。 ・相手の話を共感的に聞く力を身に付けられるような取組をする。 ・聞くことを意識させる活動をさらに工夫し、聞く力の向上を目指す。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○ペア学習やグループ学習で意見を交換したり、まとめたことを発表したり自分の考えを発表したりするなどの表現活動に意欲的に取り組む児童が多い。 ○情報を集めたりまとめたりすることに、タブレットを意欲的に活用しようとしている。 ●課題解決のために、必要な情報や知識・技能を選択し活用する力が十分には育っていない。	・各授業において、話し合い活動を通してよりよい解決方法を考えることができる。 ・互いの考えを伝え合う活動を通して、自分の考えや集団の考えを発展させ、それを表現することができる。 ・自分の考えを理由や根拠をもとにしたり、必要な情報をもとにしたりして、相手に伝えることができる。	・ペア学習やグループ学習の機会を効果的に設定し、話し合い活動では司会者を交替で全員に経験させる。 ・ホワイトボードやICTを効果的に活用した発表や話し合い活動をさせる。 ・話し合いが深まるよう、「話し合いの手引き」を継続して活用する。 ・日記や短作文を書く機会を積極的に設けることで、語彙を増やすことができるようにする。	・話し合いの手引きを各自机につけておき、いつでも活用できるようにする。 ・低学年では、語彙を増やすために、感想文を書く活動を意識して取り入れる。 ・分からない言葉が出てきたとき、その機会を捉えて言葉を共有させる。	・ペア学習やグループ学習を通して、よりよい解決方法を見いだそうとする姿が見られるようになってきた。 ・必要な情報を自分で選択する力を身に付けることができなかった。 ・話し合い活動を積極的に取り入れてきたが、深まるまでには至っていない。	・「話し合いの手引き」を改善し、活用場面を増やす。 ・読書や体験活動を通じた想像力の向上に取り組み、思考力・判断力・表現力を伸ばす。 ・情報モラルの大切さを意識づける取組を継続する。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○学習の方法や手順が分かり見通しがつく学習には一生懸命取り組むことができる。 ●自ら問題を見つけて取り組むこと、解決する方法を工夫すること、最後まで粘り強く取り組むことに課題がある。	・各教科の学習に主体的に取り組むことができる。 ・自分の学習の状況を振り返り、課題を見つけてそれを解決しようという意欲を持ち、学習に粘り強く取り組むことができる。	・「とくしま授業技術の基礎・基本」にあるノート指導を参考にし、板書と連動し、児童の思考の流れが分かるノート指導を徹底する。 ・授業のめあてを提示し、児童が見通しを持って授業に取り組むことができるようにする。 ・授業の最後に振り返りの時間をとり、次の学習へのつながりを意識させる。振り返りの視点と書き始めの言葉を示すことで、児童が自分の言葉で記述することができるようにする。	・新しいタブレットが導入されてからノートに書く機会が減り、振り返りができていない学年があった。デジタルノートの効果的な活用について、全学年で共通理解を図る。	・タブレットを活用し、個に応じた主体的な学習に取り組むことができた。 ・前時の振り返りにノートを活用したり良いノートを賞賛したりすることで、学習への意欲が向上した。	・ノート指導について共通理解をし、学校全体で改善に努める。 ・「とくしま授業技術の基礎・基本」にあるノート指導を参考にし、教科の偏りなく板書と連動させるようにする。 ・読書の大切さを家庭にも啓発し、家庭と連携して読書活動を推進する。